

倉敷鷺羽高校 令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

日 時 令和5年11月17日(金) 9:30~12:00

場 所 倉敷鷺羽高校第2会議室

1 開会

2 会長挨拶

本日のメインは、生徒との協議ということで、倉敷鷺羽高等学校の活性化に向けて、委員の方々は生徒から主題に沿っていろいろ聞き出してもらいたい。生徒の生の声を聞いてもらいたい。生徒の意見が課題であれば課題として、また問題点を言えば、その問題点の発生要因は何であるのかなど、生徒と一緒に考えたりして来年度の学校経営計画等に反映させていきたい。

3 校長挨拶

今回は、学校の様子を実際に見たり、生徒から意見を聞いたりして学校の実情を知ってもらいたい。そこから、本校の目標とか、運営がうまくいっているところ、課題などを委員の方と共有したい。そして、来年度のスクールポリシー、学校経営計画に盛り込んでいけるところを、第3回の学校運営協議会で協議したい。本校は全県学区であり、遠くから通学している生徒もいる。できるだけ生徒が本校に来てくれるように、地域の方々に信頼され、児島での存在をしっかりと果たせるようになっていきたい。

15日には、野崎邸財団の文化事業の一環として、本物の伝統芸能を見せる目的で、林宗一郎氏主催の能楽公演を行っていただいた。貴重な体験だった。これも地域の方のおかげである。

また、地域、企業と連携していろいろ商品開発をしている。この、「くらしき たこ SUN カレー」もそうである。そして、11月には、「令和5年度岡山県功労者表彰」で「公立学校で特に業績のあったもの」として表彰された。

4 授業参観

2時間目の授業を参観。

5 協議 I (学校運営協議会委員と代表生徒で班別(委員と代表生徒6名で3班)協議をした。委員から生徒へ質問する形式とした。)

学校をより一層よくするために(生徒の意見・感想、委員の方の意見等)

① 学校行事や普通科・ビジネス科の取組でよかったところなどについて

- ・授業の中で、進学や就職について考える時間は多くないように思う。
- ・普通科の各コースは本格的に勉強することができる。
- ・ビジネス科は検定が取得できる。
- ・校外で実践的な学びができる。

② 学びの指針の「自律」「挑戦」「思いやり」で、自分が自律できたと思うことなどについて

- ・生徒自ら検定を受けるカリキュラムを組むことができたらい。
- ・進学や就職について授業の中でもっと考える機会があればよい。
- ・高校に入って自分を変えようと一生勉強を懸命頑張った。新たな自分を発見し、頑張ってよかった。

③ 中学生へのPRおよび志願者数を増加するために

- ・高校生が母校や地元の中学校に行き、生徒によるマナー講座などを行うことで、高校生が中学生と触れ合うことがよい。これまで鷺羽高校にあまり興味がなかった中学生も、興味を持つのではないかと。高校の先生だけの発信だけでなく、生徒からの発信も大事である。
- ・Instagram、ホームページ、学校案内などは、学校の様子を知る上では重要である。
- ・生徒の感覚として、生徒数が増えるのが必ずしもいいとは思えないところもある。生徒数が少ないから丁寧に対応してくれているところもある。
- ・生徒が主体的に取り組んでいることをもっとPRすべきである。
- ・地域や小学生にもPRしていくのがよい。

6 報告

① 学校経営計画目標達成のための具体的方策（中間評価）について

② 広報活動等について

- ・部活動体験を主とした第2回オープンスクールは部活動体験者が少なかった。本校の入部者も多くはないが、そういうことも影響しているのか。
- ・動画再生数は普段は1,000位であるが、中学校ごとに撮った動画は、1,030,000回再生となったものもあった。生徒の生の声を発信する必要がある。
- ・Instagramはフォロワー数が現時点で1,282に増えている。（6月は337）県下でも多い方だが、必要な人に届いているのか。

7 協議Ⅱ

- ・Instagramなどについて、企業では、外に出せないものは管理者がチェックするが、文章は基本的には社員に書かせている。見る人にとっても会社にとってもメリットがある。
- ・検定は一律もいいが、もっと取りたい検定もあるので、分けてもいいのではないかと意見があった。
- ・高校生徒話し合いをすることは大変よかった。
- ・協議するテーマ（目標・目的）が漠然としているので、何をどう話し合えばよいのかわかりにくい。次のアクションに移りにくい。はっきりさせておく必要がある。
- ・生徒、学校、地域などそれぞれの視点で考えていかななくては具体的なアクションにまでいかないのではないか。
- ・3年間の中で、進路に関する時間をもっと作るべきだと思う。
- ・交通の便が悪い。
- ・小学生にも焦点を当て、交流等していくことも大切である。
- ・高校生の減少は、地域の衰退にも繋がる。児島しごと博を3月に2年次生を対象に開催する。企業側からも高校を盛り上げていきたい。
- ・高校生と話ができただけはととてもよかった。自身の変容を我々委員だけではなく、地元中学生が聞けるのはとてもよい。

8 諸連絡

- ・第3回の案内
- ・児島てくてく発表会の案内

9 閉会 副会長挨拶